

## 第2回三重県文化審議会 議事概要

令和5年11月29日(水)

10時から12時まで

### 1 環境生活部長あいさつ

### 2 議事

(1)「三重県文化振興計画(仮称)」の素案について

(2)意見交換

資料1-1、1-2、2により事務局説明

[委員からの主な意見等]

#### ○委員

形式的な部分で意見を述べたい。

まず、計画の概要版も含め、目的を明確にしたほうが良いと思う。「条例や法律があるから計画を作る」ということではなく、「こういうことを達成していきたいから計画を作る」というような形にはならないか。特に、計画素案の最初の部分は、何のためにこの計画を作るのかというところが明確ではないので、そこを明らかにしてほしい。

また、計画の実施にあたって、他の部局と連携をしていくのであれば、他の部局の人が読んでもらってわかりやすい形にしてほしい。基本方針や施策の方向性の記述が、それぞれ単線的で、有機的に連携しているように見えず、わかりにくい。全体として、文化のその分野を盛り上げていこうとするのであれば、関連する分野がすべて連携している、という形を示せないか。図やイラストで示している例もあり、参考にしてほしい。

スケジュールに関してももう少し明確にしたほうがよい。3年という計画期間の理由の説明についても、あまり納得できなかったので、なぜ3年なのかということも含めて、しっかりと書いてほしい。

最後に、各主体に期待される役割について、県民の皆さんや文化団体に対して「求められます」とまで書いてよいのか。相当に違和感があり、「期待されます」くらいの表現が適切だと思う。このままでは県の文化行政の関わり方が一方的に見えてしまう。

#### ○委員

計画素案について、何かしっくりこない、面白味に欠ける印象があったが、先ほどの意見を聴いて明確になったように思うので、その対応について事務局にはよろしくお願ひしたい。

私からは県民意識調査について、疑念や問題提起を述べたい。

調査結果を見ると、回答者の約半数が60歳以上で、地域的にも北勢地域に偏っている。これで県民全体の意識を反映していると考えていいのかが疑問。また、文化・芸術を直接鑑賞した方の割合は45.9%とのことだが、ライブ配信などを鑑賞した人はこの中に含まれていないのではないかと。さらに、映画館での鑑賞が含まれるかどうかについて明示されておらず、回答者は戸惑ったのではないかと。思う。

また、文化的環境への満足度を尋ねている選択肢の中に「わからない」が入っているが、「どちらとも言えない」であれば理解はできるが、満足度がわからないということがあるのか。なぜこの回答とした

のか、また、なぜここに回答が集中したのか、その点について疑問に思う。

県民意識調査の問4では、「文化とは何か」というのを尋ねているが、回答者になったつもりで選ぶとしたところ、単数回答であったため、一つに選びきれなかった。なぜ単数回答としたのか、その理由がよくわからない。

その他として、若い世代が文化振興に積極的に参加すべきであるということは、前回の会議でも述べたが、県民意識調査でも若い人の回答が少なく、十分に吸い上げられているのか、懸念がまだ残っている。また、回答しなかったという点に、むしろ若い世代の意識があらわれている可能性もあり、できれば若年層に対する別の手段での調査を実施すべきではないかと思った。

計画素案について、一般の方が見たときにわかりづらい言葉が幾つかあるので、用語集や説明をつけてほしい。

最後に、成果指標について、例えば、目標値として76.6%という細かい数字が出ているが、この辺はもっと大ざっぱな数字で良いのではないか。それから、令和4年度から令和8年度にかけて1.1%しか上がらないという目標で果たしていいのかどうかは疑問に思った。

#### ○事務局

県民意識調査で高齢者の回答が多いということについては、県の1万人アンケートでも同様の傾向がある。今後、年代別にクロス集計をし、若い世代の意識も把握したいと考えており、その結果は最終案までにはお示ししたい。

成果指標については、県の総合計画の中で位置づけられているものであり、例えば満足度については、過年度の平均伸び率を参考に設定している。ただし、毎年度、進行管理を行うための評価・推進会議（仮称）を設ける予定であり、その中では成果指標以外の数値もお示しして進捗管理をしていきたい。

#### ○委員

県民意識調査は非常に重要だが、そこで少し気になったのは、この調査の結果について、年齢別、職業別、居住地域別に構成比が書いてあるが、クロス分析がされていないこと。こういった調査は属性別の分析が必須。また、アンケートの統計は、専門家に分析してもらわないと、結果を間違える可能性があると思う。

基本目標についてだが、抽象的で、3年後の達成の有無を判断できないのではないかと。条例の目指す姿は比較的わかりやすいように思うので、基本目標も条例の目指す姿を踏まえて修正したほうがよい。基本目標はもう少し具体的に記述してほしいと思う。

4つの基本方針については、重要なキーワードだと思うのでこのままでよいと思う。

基本方針3の「歴史をつなぐ」については、指定文化財に限定するのではなく、無指定文化財も対象ということで理解しているがよい。

#### ○事務局

よい。

#### ○委員

基本施策(1)、(4)、(11)の3つを重点施策としているが、この3つは重点的、残りは重点的ではない施策という意味に捉えられかねないので、あえて重点と入れないほうが良いと思う。

基本施策については、全体的に見ると、幅広すぎて総花的すぎる印象もあるが、一方で、やらなければならないこともあると思うので、これはこのままで良いと思う。ただ、それぞれの施策を、誰が何をやるのかというところまで記載されていない。この計画の次のステップで落とし込むならばこれはこれでよいと思うが、現時点では明確になっていないと感じる。

基本施策（7）で「文化の担い手の育成及び確保」とあり、ここでは専門人材が取り上げられているが、文化活動をしている団体もたくさんあり、個人だけではなくてそのような団体も入れるべき。

それと、基本施策（6）の「文化施設の充実」については、県立施設のことばかりが出てくるが、文化施設は県立以外の施設の方が多はずである。

計画の推進と進行管理においては、各主体の役割を明確にすることが重要である。しかし、教育機関や民間団体、事業者など、計画の策定に直接関与していない主体は、記載されている役割をどのように認識すればよいのかわからないかもしれない。それと、各役割のところに記載の文章として気になるのは、役割を果たすことが「求められる」と全部なっているが、もう少しきつい言葉にしなければ実行してくれないと思う。こういう計画というのは、具体的にしなければなるほど、その施策をやらなかったら、誰の責任、どこの団体の責任、ということを確認しておかないと多分3年後に目標が達成できなかった原因が分析できなくなる。

個々の内容について申し上げたが、全体について、内容的には問題ないと思うが、実行に移していこうと思うと、実効性は少し不足しているように感じる。

それと前回も皆さんからご意見が出た予算に関することが出てきていないが、それが少し気になった。

#### ○事務局

まず、「県立文化施設だけではないか」というご指摘については、「三重県文化振興条例」の県立文化施設を充実させるという規定に基づいた記載であり、他の文化施設については、連携することで、県全体の文化振興を図っていききたい。

文化の担い手については、個人と団体が含まれるという趣旨で記載している。

アンケート調査のクロス集計結果について、日程的に間に合わなかったことについてはお詫び申し上げます。

それから、重点施策の「重点」という言葉に関しては、その施策に注力して、優先したいということで、重点ということであって、他の施策を疎かにするという意味ではないということをご理解いただきたい。

#### ○委員

私からは実際に行っている例をご紹介させていただいて、コメントに代えたい。

計画素案の基本施策の中で、三重の文化の魅力に関する情報発信は最も大切なことの一つではないかと思う。

今、我々はソーシャル・ビジネス・プロジェクト（SBP）という取組を進めている。SBPとは、高校生が地域の課題を解決するために、ソーシャル・ビジネスの考え方や手法を用いて、地域資源を活用した事業を創出する取組のこと。全国で約100校が取り組んでおり、その特徴は、実際に事業を運営し、学校だけでなく行政や民間、NPO等と連携していることである。

その中で、プロジェクト・マッピングの技法を用いた「SBP マッピング」という取組が行われている。SBP マッピングとは、文化祭や卒業式、入学式などのイベントで式典を盛り上げるため、自分た

ちの取組はもちろんだが、地域の魅力や課題などについてもプロジェクション・マッピングで表現するもの。SBP マッピングのベースは、誰でも簡単に作れるように簡易化されており、中高生が取り組みやすくなっている。

また全国の高校生が、インターネット上で議論しながら継続的に交流やコラボ事業を企画できる仕組み「SBP チャンネル」を企画している。

「BP チャンネル」でのコラボ事業の一例をあげると、青森県のねぶた祭り。青森県のねぶた祭りでは、担ぎ手や引き手が不足するという課題があるが、そこで、全国の高校生が集まって、青森県のねぶた祭りに参加する取り組みが始まっている。この取組は、4年間の1年目に計画を立て、その後の3年間で実行するというものであり、来年が実行の最終年度。最終年度に、この取組の成果を踏まえて、開催地域で今後継続するかどうかを議論する。

情報の発信については、高校生たちが SNS でいろんな交流を進めており、前述の「SBP チャンネル」では、高校生が全国から集まって、自らが進行して、活動を発表したり交流したりしている。今は、それを進化させて、高校生が実際にメタバースの空間を活用して、自分たちのブースを持って、色々な人に来てもらったり、或いは集会を開いたり、コンテスト開いたり、勉強会をやったりとか、そういう空間をこれから作ろうということ動いている。

また情報発信の中に、YouTube や TikTok などの SNS を活用することは有効だと思う。メタバース空間の中で、博物館などの文化施設を中心に三重県中の文化活動を集約するプラットフォームを構築できれば、色々なクロスの交流ができて面白いのではないかな。

要は、知らないものは愛せない、ということ。もっと情報発信をして、理解してもらおう。

そして、その中で良いものも悪いものも実際に体験して確認できると良いと思う。

## ○委員

言いたいことはたくさんあるが、基本的なことだけ述べたい。

計画素案の位置づけについて、県の総合計画の下での個別計画として当面3年間の計画として策定されるのは仕方ないが、策定の目的が本県の文化の振興及び文化により生み出される価値の活用に関する施策に取り組むことなのであれば、「文化の価値の活用」とはどのようなことなのかを示し、その目的を示す必要がある。

いろいろと背景についても書かれているが、ポイントとなるのが人口減少だと思う。この計画素案は、人口減少を前提として作成されていると思うが、そうではなく、人口が減って、活力が失われていくという危機に対して、どう対処していくかを三重県全体で真剣に考えていかないといけない段階だと思う。

その課題解決のために「文化の価値の活用」を考えるべきであるが、三重県で文化活動をしようと思ったときに、経済的な面や生活という観点で、他県に比べて優位性があるかという寂しい話になってしまう。文化が生活の中に根づいて、そこに住むことに誇りを持つ、そういう環境を作っていくことが、今の時代の問題に対処していくことになると思う。だから、「どのような文化の香り高い県を作っていくか」を明確に打ち出した上で、その目標に向かって当面3年間はこれをやる、ということにすべきであって、この素案では将来的にどこを目指すのかということが見えてこない。

もう1点、子どもたちの文化活動を活発化させ、郷土の歴史・文化に対する教育を充実させることで、郷土愛を醸成するとされている。しかし、そのような教育や活動によって、文化に対する感性が高まった子どもたちは、今の三重県の文化環境に満足できないのではないかな。

子どもたちの意識を高めて郷土愛を醸成することは良いことである。しかし、そうした子どもたちの

思いを受入れる側の社会の基盤も整備していく必要がある。そうしないと、子どもたちがより良い文化環境を求めて郷土を離れ、人口減少を加速させる可能性がある。

三重県の文化に対する環境をどのように高めていくか、どこまで高めていくか、ということを明確に打ち出し、取り組むため、そもそもの部分をもう少し議論していかないといけないだろう。

#### ○委員

基本方針の中で、文化は人々の心に感動や喜びと書いてあるが、文の最後に「県民の皆さんが心豊かな生活を送る上で必要不可欠なものです」というところがあるが、何となく押し付けがましく思う。文化の重要性は強調したいが、「必要不可欠」まではいらないように感じた。

また、「地域の文化は先人が長い間守り」とあるが、「守る」とともに、「築き作り上げてきたもの」と感じたので、「守る」というところが少し引っかかった。

もう1点、主な取り組みの「文化に関する普及啓発」で、県民の皆さんが、文化や芸術に触れ親しむきっかけとなるよう、気軽に楽しめるコンサートや公演とあるが、そこに例えば展覧会とかアート系展覧会とか展示会とか、そういったコンサートや公演だけでなく、展覧会だけでも気軽に足を運べる機会でもあるので、そういったものを入れてもよいと感じた。

前回の意見も踏まえて変更してもらったが、この「文化の力で心豊かに活力ある三重を実現」という基本目標について、あえてマスコミの立場からも言わせていただくと、わかりやすさという点で、少し長いように思う。例えば、「を実現」はいらない。又は「文化の力で心豊かに」の後に「！」をつけたり、スペースを空けて「活力ある三重を実現」と分けてもらったり、何か伝わりやすさの工夫があると良いように感じた。

また、成果指標について、「環境をつくる」に関する目標値にわかりにくさを感じた。参加した人数や文化施設の利用者数などの数値目標だけでは、単にその数を増やすだけで達成できてしまうのではないか。単に数を増やすだけでの目標ではなく、親しみやすい公演が増えた、行ってみたいなど思えるものが増えたなど、空気感のようなものを盛り込むことができればよいのではないかと漠然と感じた。

アンケート調査の結果をみると「時間の余裕がない」という回答が多く、共感できる。しかし、魅力的な公演等であれば、時間を作っても観たいと思う人もいる。そこで、時間の余裕がない人でも気軽に触れられるような、地域の中で身近に文化や芸術を楽しめる機会を少しずつ増えていってもらいたいと期待している。

#### ○委員

まず、この計画は「三重県文化振興条例」との一貫性が必要だと思っており、条例を具体化するためのものだと私は考えている。また、この計画は、県の総合計画の一つの分野として考えるべきだろうと思う。この計画は、条例で打ち出されている目的や行政、県民の役割などを担保していくものであり、そうした観点で見ると、目的、基本理念、基本目標、基本方針、施策、事業目的とその事業の成果が、これから具体的に考えていくことができるようまとめられて、詳細な目標取組が整備されていると感じた。

「環境をつくる」について、文化・芸術を活用して県民の皆さんのアメニティーをとらえ、文化県、そういった三重県をつくるという点に主眼に置いていると感じた。

そして、「人を育てる」について、子どもたちの育成と高齢者、障がい者にもその文化活動に対する配慮をしていることで、基本理念やそのビジョンを達成するための目標がしっかりしたと思う。

前回の審議会では、財政上の措置に関する意見が出されていたが、そういう面を意識できるような表現があってもよいと思う。

それと、文化芸術の創出のための環境整備は、地域の活性化を特に意識していることが非常に良かったと思った。また、文化芸術が持つ創造性を生かして産業の振興、観光資源を地域の活性化につなげていくという考え方において、文化の創造性が地域の活性化の要因であることも包括されていると思った。

色々課題もあり、先ほど計画期間についての意見もあったが、この計画が県の総合計画の個別計画であることや、社会変化の速さに対応していくためにも、計画期間は3年でよいのではないか。国の計画も5年程度を目途に考えられている。

この計画は「三重県文化振興条例」との整合性、一貫性の担保が重要だと思う。

## ○委員

アンケートに関してはクロス集計や全体を見ないとわかりにくい部分もあると思う。特に、問7で、令和4年度に直接鑑賞した人の割合については、文化・芸術が少なかったにもかかわらず、45%が鑑賞したということは、実はすごく高いことなのではないか。実際は、年齢層によって鑑賞した人と鑑賞していない人との差が大きく、若年層は案外見てなくて、年齢が高い層はたくさん見ているとかいうことも多分あるのではないかなと思うので、もう少し精査を重ねないといけないと思う。

計画素案に関しては、たまたまコロナ禍となって、大きく文化芸術活動が揺さぶられた中で、この「三重県文化振興条例」ができたという背景があり、もう一点は、ハードを作るという部分が今は終わっていて、ソフトや人に文化技術は投資しなければならない時代に入ってきていることがある。

文化を継承し、発展させるためには、文化に触れる人、文化を作る人、文化に携わる人の3つの層を増やしていくことが重要である。こういう人たちをいかに増やしていくかという前提で施策はやるべきだと思う。前回、重点を作るべきと述べたが、重点施策は、おそらくこの三つ、触れる人、作る人、携わる人をどのように増やしていくかという点で、こういうふうに重点を置いてやりたいというようになった方がよかったと思う。

3年間の計画なので、3年でやれるという理解でいくと、その3年で実現できる施策もあれば、3年をスタートアップにして、今後の文化計画につなげていく施策もあるということでないといけないと思う。現状だとやはり3年でできることが強く出ていて、その先をどうするかということが文言に反映されていないように思え、踏み込みが弱いと思う。

文化政策の重点施策を策定する際には、誰がその施策を実行するのかを明確にすることが重要である。今のままでは、特に、計画は立てたけど誰がやるのか、その誰ということを実は知らない、よくわからない構図ができてしまうのではないかと気になります。私は、これまでネットワークの不備を指摘してきた。文化活動を担う人材を育成し、ネットワークを構築することが重要であり、この点にもう少し踏み込んでほしい。

あと、評価・推進会議（仮称）について、どのようなものになるのか計画の段階でも構わないのでお聞かせ願いたい。

私は3年であるならば3年でやれることはしっかり書いた方がよいと思うが、全体的に文言が、柔らかくなって踏み込みとして弱くなっていると気になるところ。

## ○事務局

評価推進会議については、外部有識者がこの計画に基づいて、1年の間でやってきたことについて評

価と検証するものである。年に数回開催し、進捗状況を確認していただき、どういうことが課題になっているか、そういう課題をどう解決していくかというような意見をいただきたいと考えている。

#### ○委員

私からは最終案に取り入れていただきたいことについて話をさせていただく。

計画期間が3年ということは揺らがないものと理解した。そうであれば、3年でできることをこの計画には盛り込むべきだと思う。

その中で、基本目標について、前回の私の意見を踏まえて変更していただいた点はうれしく思う。アンケート調査の結果を受け、「文化の力で心豊かに活力ある三重を実現」とした点は評価したい。文化の力で一人一人が心豊かになって、三重を活力あるようにしていくということと理解している。3年で実現することは難しいかもしれないが、これからも2期、3期と続いていく計画の最初の目標として掲げるのは良いのではないかとおもう。

また、アンケート調査についても、とても良いと思って、クロス集計の結果にも関心がある。ただ、「子どもたちの文化活動の充実」という重点施策を設けることは良いと思うが、「三重県文化振興条例」中で子どもたちを概ね18歳までと想定している中、このアンケート調査は18歳以上を対象に行っており、対象者から意見が無く、反映できていないように思う。例えば、中高生などの声を、盛り込めるとよい。希望だが、今回のアンケート調査でも若い世代があまり回答していないということから、文化行政への意識が強くないと思うので、子どもたちと若い世代を取り込んで、活力ある三重にしていってもらいたいと思う。

また、観光との連携については、アンケート調査の結果からもそういう方向で取り組むと理解しているが、観光と連携していくのであれば、令和7年には伊勢神宮の式年遷宮の山口祭、令和8年にはお木曳きが始まるので、「三重県観光振興基本計画」と同様、「イベント等の機会をとらえた関心の醸成」の中に、次期式年遷宮に関連する記述があってもよいのではないかと。観光と連携していくのであればそういった文言も今後は必要になると思う。

#### ○委員

計画素案には、障がい者の芸術文化活動のことが記載されているが、12月1日、2日に、鳥羽市の体育館で開催される「三重県障がい者芸術文化祭」に、作品数として520点程の作品が集まった。去年は、四日市市で開催され600点以上の出展があったが、今回も520点程集まった。ある施設からは、その利用者たちが作った手芸や絵画など、1施設で60点の応募があった。当初よりだんだんと作品も増えてきたところ。

「三重県障がい者芸術文化活動支援センター」は3年前に県が立ち上げたもの。出展された作品は、それぞれの地域の専門の先生方に審査してもらい、各賞を決めていただいている。

アンケートでは、なかなか見に行く機会がないという回答ももらっているが、支援センターができるまでは、1箇所で開催して終わりだったところ、各地域で見てもらおうと、県内各地、北から南までの数か所、優秀作品等を持って行って見てもらえるようになった。巡回するのは、今年で3年目。

今のところは三重県だけの障がい者芸術文化祭だが、他県では全国を対象としているところもあり、この先、作品は全国から募集をかける可能性もある。現時点では、三重県内から作品を集めて展示しているが、この先、全国規模になったら大きな事業になっていくと思う。「三重県障がい者芸術文化活動支援センター」を作っていただいたおかげで、障がい者の芸術文化の活動範囲がかなり広がってきている

ことは確かだと思っている。

#### ○委員

前回、子供たちが文化に触れる機会を増やすためには、教員が文化に触れる機会を増やすことも重要であるとの意見を述べたが、今回、その意見を踏まえた内容としてもらったことをうれしく思う。

地域のお祭りを学校の授業で取り上げたところ、地域の方からも感謝され、また、地域の和菓子屋さんインスタグラムで取り上げてもらい、その宣伝にもつながった。地域の方々からは一方的に助けられており、学校からのお礼も受け取ってもらえないことも多いので、学校が文化活動に触れる機会があったときに、地域の団体や保存会のような方々に支援されるような仕組みがあればよいと思う

それからもう1点、小学1年生の音楽の授業を見ていたところ、「くるみ割り人形」の音楽を残念ながら、音の良くないCDラジカセで聞いておる状態だった。ここで本物が聞けたら、この子どもたちの中に何か芽生えるのだろうという思いを持って見ていた。例えば、公民館などの活動の中で楽器に触れた地域の子どもたちが、音楽を習いたいと思ったときに、遠くの都市部まで習い事のために通わなくてはならない。そういった地域格差の問題にも切り込んでもらえたら、という思いもある。

また、この地域の子どもの多くが、車で20分、30分以上かけて図書館に行く必要がある。本を読まない子どもの多くが、家に本がなかったり、近くに図書館がなかったりすることが、本を読まない理由であると答える子どもたちもいる。図書館の整備や充実だけでなく、出張図書館などの取り組みも重要であると思う。また、子どもたちが文化に触れる経験が、将来の自分たちのキャリアに関わっていくのは、計画期間である3年より先のことだと思うので、継続して取り組んでいただけるとありがたいと思う。

最後に、「学校教育等との連携」のなかで、部活動の地域移行に関わる内容が記載されているが、これは地域の実情によって進み具合や方向性が様々である。学校や地域で検討してもらっているところだと思うので、3年間という計画期間の中で、あまりに早急に舵を切ることなく、慎重に取り組んでいただきたい。

#### <意見交換等>

#### ○委員

これは新規の基本計画に当たるものだが、普通、基本計画ができたならその上で実施計画を作って、実際に施策に反映していくと思うが、そのように進めるのか。

#### ○事務局

実施事業については、予算の裏付けも必要になるため、この計画中には具体的な内容は記載していない。毎年度の具体的な実施計画は、評価・推進会議（仮称）の中で示させてもらいたい。

#### ○委員

予算については、県だけではなく、市町、事業者、文化団体、それぞれが予算を持っている。こういった団体の予算も考えてもよいと思う。県の予算の範囲の中でしかできないという制約が出てくるのであれば、絵に描いた餅となる。計画の施策は、県がやることばかりではないはず。

果たして、県だけでこの目標が本当に達成できるのか疑問。この計画自体が、総花的に広がっている



ので、全部やろうと思ったら、県だけでできるはずがないと私は思う。県のやる部分だけを決めるのであれば、「県はこの施策のここまで県がやります、あとは民間団体お願いします」とはっきり出してもらったほうがわかりやすい。

また、本当にやらないといけないのは、実態調査だと思う。地域でいろんな文化活動されている個人や団体がたくさんいる。多分その情報は市も持ってないし、県も持ってない。まず、その実態調査をどっかでやる必要がある。その中で、今幾らお金をかけて、そういう文化活動やっているのかということも調べないと駄目だと思う。

#### ○事務局

「三重県文化振興条例」では、基本理念として、三重県全体の文化振興を図るという理念が謳われていて、それぞれの各主体の自主的な役割を規定している。基本的にこの計画は県のやる仕事で、他の主体については、県と一緒に連携・協力してやっていくものと考えている。

#### ○委員

県では、毎年、数値目標に対して、どれだけの成果があったかということを検証するための会議を開催し、結果報告、それから、達成に関してこれからすべきことを検討しているはず。

また、民間を含めた全ての文化施設、文化団体やそれに文化に関わる人々が取り組むことについて、今委員がおっしゃったことは、非常に大切なことだと思う。ただ、条例があつての計画なので、この計画の中では少し難しいかもしれない。

#### ○委員

皆さんのご意見をお聞きして、特に、SNS も活用して若者や高校生に対していろいろなお祭りや文化活動に対して取り組まれるという、ソーシャル・ビジネス・プロジェクト（SBP）の活動は個人的に興味深くうかがった。そのような仕組み、活動は個人的には大変面白いと思う。

県の予算の裏付けがないという話もあつたが、私が関係した国立大学でもそういうところがあり、行政の事情というか、その点はやむを得ないところもあるのかもしれない。ただ、予算の制約があつたとしても、例えば、ソーシャル・ビジネスという考え方で、皆さんにそのような文化活動をやっていただければ、もっと広がり、また、民間の方々とも連携できれば、計画の目指すところが実現できる可能性があるように感じた。